

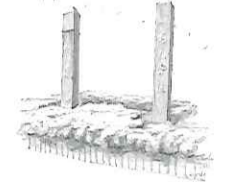
地区の記憶を伝える歴史資産

① 同聚院の文化財



稲垣長茂時代の遺構と伝えられる武家門（市指定重要文化財）、文明12年銘の文明の石幢（せきどう）（市指定重要文化財）、伊勢崎藩年寄を勤めた関當義（せきまさよし）・重兼（しげたか）父子の墓（市指定史跡）、樹齢約600年と伝えられる大カヤ（市指定天然記念物）などがあり、このまちの長い歴史を伝えていきます。なお、武家門は四脚門の形式を持ち、伊勢崎市内で最も古い木造建築物です。

④ 赤石楽舎・旧赤石学校門柱



赤石楽舎は伊勢崎の郷名を冠した市民交流施設。また北小学校はかつて赤石学校と呼ばれ、1873（明治6）年、本光寺で開校、その後5年ほど旧学習堂が使われた後、1882（明治15）年に現在地に洋風の堂々たる校舎が完成しました。この時の校舎は戦災により焼失しましたが、門柱のみが残されました。北小学校は伊勢崎で最も古い小学校です。

⑦ 伊勢崎神社



13世紀に、この地の鎮守神として建てられたとされ、1926（大正15）年の稲荷神社の合祀前は飯福神社と呼ばれていました。一間社流造（いっけんしゃななれづくり）の本殿は1848（嘉永元）年の建築とされ手の込んだ彫りの深い彫刻が随所に施されています。なお拝殿および幣殿は1936（昭和11）年に宮大工佐藤源六により建造されたものです。

⑩ 相川考古館



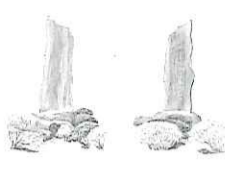
1950（昭和25）年に開設された考古資料館。江戸時代の町役人の居宅（脇本陣）がそのまま展示に使われています。創始者相川の賀が収集した資料で国指定重要文化財の埴輪4点、伊勢崎周辺地域の埴輪類、上植木廃寺の礎石等が展示されています。また敷地内には1861（文久元）年建築の茶室「鶴華庵（しやうかあん）」（群馬県指定重要文化財）があります。
月曜日休館（9:30～16:30 大人500円/子供200円）

② 赤煉瓦トンネル



現在の図書館坂下の駐車場奥に、かつて徳江製糸所（器械製糸工場）があり、坂上にあった従業員寮と製糸所を結ぶ赤煉瓦トンネルが、図書館の北の住宅街の中に残されています。味わい深いたたずまいの中から、女工さんの声が聞こえてくるようです。また三ツ家橋のたもとには、若くして亡くなった無縁の女工さんを弔う「しんぼう地蔵」が建てられています。

⑤ 下城弥一郎・森村熊蔵の碑



織物会館西側に建つ顕彰碑（市指定重要文化財）。明治期、両名とも県議会議員として伊勢崎織物の振興に努めました。下城は明治に入り、良質な伊勢崎織物の生産のため、明治14年に伊勢崎太織会社を設立、同19年の染色講習所の開設等献身的に尽力しました。また、森村は明治23年に無伸縮の縮綿（ちりめん）を開発し、縮綿物の海外輸出に尽力しました。

⑧ 本光寺



永和年中（1375～1379）に開山し、1572（元龜3）年、現在地に移転しました。現在の建物は1853（嘉永6）年に再建し、明治32年に大宮塔を加えたものです。伊勢崎藩七代藩主酒井忠恒が太田大光院へ懇請し、1856（安政3）年に大光院開山呑竜上人像を安置し、火災消滅国家安全を祈願し、呑竜像として親しまれ、毎月7日に縁日が開かれていました。

⑪ 石川泰三生家



石川泰三は、赤石学校初代校長を務めた設楽天僕（したらてんぼく）に学び、赤石学校の教員となった後、佐波郡等の郡長を務め、1915（大正4）年から1932（昭和7）年まで、第4代伊勢崎町長として町政を担当しました。大伊勢崎主義を主張し、六間道路の整備、南小学校の建設、伊勢崎神社の昇格等、伊勢崎の基盤整備に尽力しました。現地には主屋と土蔵が残され、静かにその功績を伝えていきます。

③ 旧時報鐘楼



県内最古の鉄筋コンクリート造の建造物（市指定重要文化財）で、1915（大正4）年当時横浜でハッカの貿易商を行っていた伊勢崎西町（現三光町）出身の小林桂助の寄贈によるもの。外壁の赤レンガ積みやドーム屋根が西洋文化に憧れた大正人のロマンと誇りを今に伝えていきます。小林の興した「小林桂株式会社」は今は神戸にあり、今もハッカの貿易国内第一位の地位を保っているそうです。

⑥ いせさき明治館（黒羽根内科医院旧館）



1912（明治45）年に今村院として建てられた伊勢崎を代表する木造洋風建築（市指定重要文化財）。木造洋風建築としては、群馬県で最も古いものです。2002（平成14）年本町通り南側より現在地へ曳き家移転し修復改修工事が行われました。洋館としての質の高い装飾と洋折衷の設えが随所に施されています。
第1・3日曜日のみ開館（10:00～15:00 入場無料）

⑨ 町田佳馨生家



町田佳馨は1888（明治21）年生まれ、大学在学中より三味線を習得、NHKで邦楽番組を担当。独学で五線譜による民謡の採譜を試み、1937（昭和12）年から町田式写音機を携行し、全国各地の民謡の録音採譜を行い「日本民謡大観」を著しました。その生家は明治時代の建築で、醤油醸造業を営んでいた当時の隆盛を偲ばせる威風堂々とした佇まいを伝えていきます。

⑫ 伊勢崎河岸の石灯籠・武孫平家住宅



石灯籠（市指定重要文化財）は1819（文政2）年に建てられ、航路安全を願い、住吉大明神・大杉大明神に奉納したものです。当地に建つ茅葺きの民家は、初代武孫右衛門（たけまごえもん）が1663（寛文3）年の開業以来、明治10年代まで二百数十年に亘り船問屋を営業してきた家です。格式のある式台を備えた造りは、武家とこのまちの長い歴史を伝えていきます。
スケッチ：近藤蔵人

発行：伊勢崎市企画調整課 TEL0270-24-5111（代表）
作成：赤石まちづくりプロジェクト

地区の歳時記

いせさきおもち（1月11日）
昭和20年より始まった、県内では3番目に行なわれる「だるま市」。総起だるまを中心にして多数の露店が本町通りを埋め尽くし、夜遅くまでにぎわいます。

三光町とんぼ焼き（1月中旬）
昭和53年1月、子供たちへの防火思想の普及と、家内安全、無病息災を祈願して町内の消防団2-1分団の協力を得て始まりました。古い建物を折壊して町内の消防団2-1分団の協力を得て始まり、昔に健康で安心、安全な町になる様に勤めます。

いせさきせせつまつり（7月中旬）
本町通りを中心に手づくりの竹藪が美しく風になびきます。通りを埋め尽くす多くの露店に舌鼓を打ち、色とりどりの七夕飾りを目を奪われます。

いせさきまつり（8月第2土・日）
※第2土・日が例祭の場合は第1土・日です。
伊勢崎市を代表する夏祭り。山車、みこしの競演や郷土芸能、パレード、大抽選会など様々なイベントが目白押しです。また、1000人以上が一斉に踊る伊勢崎オリーブダンス「ダンス・ダンス・ダンス」が盛りを大いに盛り上げます。

燈籠まつり（10月中旬）
秋の夜、何千もの提灯が川を照らす灯籠まつり。伊勢崎の歴史とその周辺を懐かしく包み、静かで幻想的な風景を演出しています。また、秋の夜、何千もの提灯が川を照らす灯籠まつり。伊勢崎の歴史とその周辺を懐かしく包み、静かで幻想的な風景を演出しています。

西の市（12月12日）
本光寺とその北側の「香電通り」を中心に熊手やお宝といった開運・商売繁盛の縁起物を持つ露店が並びます。西の日にすると他所と重なりつつも、12月12日に決めたと言われています。

「赤石」地区の歴史 ～ここは伊勢崎発祥の地～

伊勢崎はかつて赤石と呼ばれていました。戦国時代、その台地の先端に伊勢宮が祀られたことから、人々は「イセサキ（伊勢崎）」と呼ぶようになったと考えられています。

城下町として栄えた伊勢崎（江戸時代）
1601（慶長6）年第一次伊勢崎藩主として稲垣長茂が入り、城下町の町割を行いました。長茂の死後前藩主となり、1637（寛永14）年酒井忠能（ただよし）が、1662（寛文2）年に小藩に昇格されるまで、第二次伊勢崎藩主として、城下町の骨格を完成させました。その後再び前藩主となり、1681（天和元）年酒井忠寛（ただひら）が二万石を分知され、第三次伊勢崎藩が成立し、以後明治維新まで酒井家支配による、城下町としての繁栄が続き、稲垣長茂肖像画（天増寺所蔵）

戦争、そして総戦前夜の空襲
第二次世界大戦下、米軍は軍工場の所在地への空襲を繰り返し、伊勢崎市も1945（昭和20）年8月14日夜半過ぎ、米軍の空襲により旧市街地の4割にあたる1,953戸が焼失し、死者29人、重軽傷者154人、被災者8,511人を出しました。夜明けけた15日に、戦争は終結しました。

空襲被害の様子
空襲被害に遭った被災復興都市計画
美施されたばかりの被災復興都市計画
空襲の被害に加え、昭和22年9月カスリーン台風（カスリーン台風）による被害の様子
受け継がれ、今に残るまちの歴史・暮らしの記憶
かつての中心市街地の意識が全国で話題となる中、もう一度地域の特性を再認識し、地域独自の個性や歴史性をまちづくりに活かそうという意識が高まっています。「赤石」地区には長い城下町としての歴史と鉄仙で栄えた近代以降のまちの歴史や暮らしの記憶が各所に残り、今に受け継がれていよう。伊勢崎らしいまちづくりのあり方が今模索されています。

伊勢崎発祥の地
『赤石』まちめぐり
散策マップ

『赤石』とは……伊勢崎の吉地名
伊勢崎はかつて広瀬川が伊勢崎台地を浸食して崖を形成し、その崖が関東ローム層で赤い土であったことから、『赤石』と呼ばれたといわれています。
その郷名は、伊勢崎と代ってからも残され、伊勢崎最古の小学校は赤石学校（現 北小学校）でした。近年では赤石楽舎が北小学校に併設されるなど、その他にも商店や諸団体がその名を愛着を持って冠しています。

寛政10(1798)年 伊勢崎町古図

※個人のお宅である歴史資産は、外観をお楽しみいただき、敷地内への立ち入りはご遠慮ください。

『赤石』まちめぐり 散策マップ

■旧学習堂
図書館の南辺りに伊勢崎の藩校「学習堂」がありました。伊勢崎藩は藩士の教育や庶民の教育に力を入れていました。



■徳江製糸所
ここには明治14年に造られた器械製糸工場がありました。通称「丸窓」と呼ばれていました。多くの女工さんが働き、上流三ツ家橋のもとには、若くして亡くなった無縁の女工さんを弔う「しんぼう地藏」が建てられています。



まちかどステーション広瀬
高速バスの発着所にもなっています。

新開橋（昭和2年建設、平成7年架け替え）
橋の欄干や照明のデザインは、銘仙にちなみ、着物の襟の合わせの形で、橋上から見る赤城山は絶景です。

■伊勢宮はどこに～伊勢の前通り
三光公園南辺りに伊勢宮があり、その前をかつて伊勢の前通りと呼びました。



■赤石稲荷
旧西町（現三光町）のお稲荷様。広瀬川河畔伊勢崎1号古墳の上にたたずんでいます。

■馬坂と馬頭観世音
この辺りは昔「馬坂」と呼ばれ、広瀬川の河岸へ通じる急な坂で、馬に荷を曳かせていました。荷主や馬主たちは、馬の壮健を願って馬頭観世音を建てました。

● 伊勢崎城(陣屋)の位置
▲ 歴史資産①～⑫の位置を示す
■ 今はなき歴史資産



曲輪新道：開道記念碑
明治43年、赤石地区から旧三郷村太田の本郷郷に通じる里道が開通し、記念碑が建てられました。

曲輪町の県営住宅の下
空襲の際の瓦礫が埋められているそうです。

同聚院の大カヤ
江戸時代、伊勢崎藩主酒井家は、カヤの実を将軍家へ献上していました。

おすすめ北回りコース
約2.0km

同聚院武家門と中台寺をつなぐ道
かつてこの通りは大門通りと呼ばれ、緑日が立ち、賑わいました。

両毛線
両毛線は、両毛地域の生糸や織物を横浜港等へ運ぶため、明治22年に開業しました。

伊勢崎城(陣屋)はどこ？
薄い桃色の付いているところがかつての伊勢崎城(陣屋)の位置を示します。表紙の古図の城を重ねてみた大まかなものですが外堀の外周を示しています。錠型の雁木折りの形状等、今もそのまま受け継がれています。今の北小の北側部分に、本丸(御殿)がありました。

道の記憶と雁木折り
駅前通り、本町通り、西町(現三光町)通り、川岸町(現三光町)通り、裏町(現三光町)通り等の骨格としての道、更にかつての伊勢の前通り、大門通り、中台寺から南に伸びる同心町通り等の細街路に至るまで、多くの今の道は、江戸時代からの道そのままです。また駅前通りのS字状の曲がりやあかいし保育園北東の道のクランクは、江戸時代の雁木折りの名残です。

「雁木折り」って何？
敵に攻め寄せられたときに、正面からだけでなく、横合いから防禦のために弓矢・鉄砲を射かける等の軍事上の防禦のための道の形を言います。

旧時報鐘楼の煉瓦：空襲の記憶
外部の赤煉瓦は、黒く焼けこげ、ところどころ表面が焼けただけのようになっています。これは、終戦前夜(昭和20年8月14日)の空襲によるものです。市街地の約4割が焼失しました。当鐘楼は戦争の記憶を目に見える形で伝えている貴重な歴史の証人です。

伊勢崎神社のプロペラ
伊勢崎には戦前、中島飛行機(現富士重工)の工場があり、戦勝祈願や航空安全を願い、飛行機のプロペラが奉納され、今も拝殿正面に掲げられています。

呑竜様緑日の賑わい
本光寺は幕末に太田の子育呑竜様を迎え、毎月7日を縁日と定めて盛大にご開帳や稲荷講を行い、地域興しに力を入れ、大変賑わっていました。

